

先ニト逃ケレバ、重盛彌勇ミテ、大庭ノ椋木許迄責付タリ、義朝是ヲ見テ、惡源太ハナキカ、信賴ト云大臆病人ガ待賢門ヲ早被破ツルゾヤ、アノ敵追出セト宣ケレバ、承候トテ被懸ケリ、續兵ニハ鎌田兵衛○中已上十七騎、轡ヲ雙ベテ馳向、大音聲ヲ揚テ、此手ノ大將ハ誰人ゾ、名乗レ聞カン、角申ハ清和天皇九代後胤左馬頭義朝嫡子、鎌倉惡源太義平ト申者也、生年十五歳、武藏大藏ノ軍ノ大將トシテ、伯父帶刀先生義賢ヲ討シヨリ以來、度々ノ合戰ニ一度モ不覺ノ名ヲトラズ、年積テ十九歳、見參セントテ、五百騎ノ真中へ割テ入、西ヨリ東へ追マクリ、北ヨリ南へ追廻シ、豎様横様、十文字ニ敵ヲ颯ト蹴散シテ、○下

〔平家物語〕四宮の御さいごの事

足利が其日の之やうぞくには、○中大おん聲をあけて、むかしてうてき將門を亡ぼして、けん玄やうかうふつて、名を後代にあげたりし、俵藤太ひで郷に十代のこうゐん、下野國の住人あしかがの太郎としつなが子、又太郎たゞつな、生年十七さいにまかりなる、かやうにむくはんむるなる者の、宮に向參らせて、弓を引矢をはなつ事は、天の恐れすくなからず候へ共、たゞし弓も矢もみやうがの程も平家の御上にこそとゞまり候はめ、三位入道殿○源の御方に我と思はん人々は、より合やげん參せんとして、平等院の門のうちへ責入々々戰けり、

〔源平盛衰記〕二十高綱賜姓名附紀信假高祖名事

兵衛佐殿○源又射殘シ給タリケル、箭ヲ取テ番ヒ、既ニ引カントシ給ケルニ、佐々木四郎高綱、矢面ニ塞リテ、大將軍タル人ノ、左右ナク弓ヲ引、矢ヲ放事侍ラズ、御伴ノ者共、一人モアラン程ハ、輕敷事有ベカラス、郎等乗替其詮也、トク々延給へ、定綱、高綱兄弟御身近侍リ、可禦矢仕、但姓名給ラント云ケレバ、佐殿子細ニヤ、暫高綱ニ預給フト宣へバ、佐々木姓名ヲ給テ、弓矢取テ番ヒ、坂ヲ下ニ向テ、大音揚テ名乗清和帝ノ第六皇子貞純親王ノ苗裔多田新發意滿仲ノ後胤、八幡太郎